

# 自然に学び、先人に学ぶ

## No.1 ～食と農業～

\*人の運は食にあり(水野南北／江戸時代の達人易者)

\*「食べる道楽」もあれば、「食べない道楽」もある(町田宗鳳)

\*食べ物で治せない病気は、医者でも治せない

\*満腹が原因の病気は空腹によって治る(ヒポクラテス)

\*花は花以外のものからできている(ティク・ナット・ハン／ベトナムの仏教僧)

\*私たちの体は、食べた物でできている

\*体は常に正しくはたらく

人や動植物の病気の真の原因を正確に特定することはできません。由って、現代の科学(医学や薬学)の得意とする対症療法だけで、原因を特定してピンポイントで治癒する、或いは予防することは甚だ難しいことです。一時的に抑え、散らし、眠らせるに過ぎないことをもっと知らなければなりません。“自然界には4百4病あるが、薬を使うほどのことはない”と言われた先人がおられましたが、正にその通りかと思われます。

人も動植物も薬等に頼らず病気を治癒する、予防できる共通の要件があるとすれば、それは「**環境(場)に依る**」ということではないでしょうか。環境には、物理的な側面と精神的側面があり、また、体外的側面と体内的側面があります。植物・作物は土壤の健全性や四囲のあらゆる条件や作用によるところが大きく、動物や人間はその植物・作物に依存して生きています。『食という環境』の保全と更に意識(心)のあり方などによって私たち自身の健康と健全性を維持していかなければなりません。

—不健康な土壤からとれた食物を食べている限り、魂は自らを肉体の牢獄から解放するためのスタミナを欠いたままだろう— (ルドルフ・シュタイナー)

素直とか謙虚ということと、鵜呑みにすることは全く別物です。日々ありとあらゆる情報がTVやインターネット・新聞・雑誌などから流れ出ています。それによって私たちはいかに危険(リスク)な状況におかれているかを理解するためには、自ら確かめ、感じて、考えて、真実を判(解)ることです。

“今日はどんなものを食べ、何を飲みましたか!?”

病気になり、薬(毒)を使う原因(環境)は自分自身で創っています。

- \* 医(個)の批判ができるのは農(全体)しかない
- \* 病原菌やウイルスは弱いものが好き
- \* 元気であれば病気にはならない
- \* みんな美味しいものを食べたい、でも何がホントか、美味しいかがわからなくなっている
- \* 何を食べ、どんな食べ方をしているか、形や色だけ本物そっくりの化学合成物がいっぱい
- \* 食べ過ぎ飲み過ぎは病気をつくり、そして、養う
- \* 施肥は土に点滴しているようなもの
- \* 病気は自然から離れたときに始まる
- \* 農薬は薬ではなく毒なのだ
- \* 害虫という虫はいない
- \* 欲張るとろくな事はない
- \* 自然の力をもって自然を生かし、自然の力をもって自然を制す
- \* 世話(愛情)と余計なお世話があるという分別が難しい
- \* 農とは耕すこと、<sup>わし</sup>儂は耕す人
- \* 農業とは、人の営みのための文化であり、哲学を持たなければならない(福岡正信氏)
- \* 善玉菌、悪玉菌という菌はいない
- \* おいしさの基準は、口に入れた瞬間の感じできまり、お代わりしたくなるかどうかである
- \* 必要か？ 必要でないか？ではなくて、使ってはならないのが農薬

自然に学ぶ会

さて、唐突ですが、現代の私たちは一体何を食べて生きているのでしょうか？

米、野菜、果物、牛肉、豚肉、鶏肉、魚、そしてこれらの加工食品や飲料です。

でも本当は何なのでしょう？何を食べているのでしょうか？

なぜこのようなことを申し上げるのか、と言いますと、私は団塊の世代ですが、私たちの幼い頃（昭和 20 年代～40 年代）には少なかった（聞かなかった）病気、例えば、ガン、心臓病、糖尿病、認知症、うつ病、自閉症、ダウン症、アトピー、アレルギーなど数え切れない程の病気が今蔓延しています。そして、その現象や問題点は長寿命化したことによる数の多さのことではなく、幼い子どもたちや壮年に広がっているということです。長寿国家の立役者は明治、大正、昭和初期生まれの粗食で育った頑丈な人たちなのですから。医師の数も、病院も増え、高度の医療技術が発達しています。新薬も次々に開発されています。それに比例して？病気は年々増え続け、医療費は国家予算の約半分（約 40 兆円）に膨らんでいます。一体どうなっているのでしょうか？その本質的な原因は何でしょうか？昔は殆ど無かったものが、なぜ今、現代に蔓延しているのでしょうか？

大気汚染、薬害、電磁波問題など病気の遠因・原因と思われるものはたくさんあります。由って、病気の原因を絞れるわけではありませんが、原因の大きな一つに「食品」が挙げられると思います。この「食品」は実は農薬と化成肥料で育てられた米、野菜、果物という化学合成物であり、薬品まみれの輸入の飼料を食べさせ、ホルモン剤等を投与された牛、豚、鶏の肉という化学合成物、何を与えているのか分からない養殖の魚介類、作物や畜産・魚介類の加工食品は日持ちや見た目を良くした添加物だらけの化学合成品、飲料は砂糖と着色料で果物などに似せた本物まがいのものばかりと言っても過言ではありません。

光であり、エネルギーであり、生命力そのものでなければならぬ作物や肉、魚でなければ私たちは健全性（ホメオスタシス）を保つことができません。現在、私たちは米、野菜、果物、肉や魚はその形をした化学合成品を常食しています。これで、健全で活力に満ちた命を全うすることは難しいと思われまふ。健康を約束できる農業という一次産業を再構築していかなければなりません。一時産業であってはなりません。

**農業に照らして、いろいろな視点から考えてみますと、**

当然のことですが、いい圃場（土壌）にはいい作物が育ち、病気はありません。そして、虫も付きにくく、美味しく、市場では希少な貴重品として高値で売れていきます。生産者も消費者もみんな笑顔になれます。

自然に学ぶ会

では、多くの農業の現場ではなぜ作物が病気になり、虫が付くのでしょうか？  
そして、私たちが望む『滋養豊かな美味しい、御代わりしたくなるようなもの』がなぜ作れないのでしょうか？

人間や動物の健康は食べ物と腸の働きにかかっています。私たちの主食である植物（作物）にとって健康を左右するのは土です。いわゆる動物の腸に相当するのが土であり、その土に何（植物が必要とするもの）を入れるか、です。

一言で言いますと、病気や虫を寄せる原因、連作障害の原因は人間がつくっています。  
基本は子育てと同じで、「育てる」ものではなく「育つ」もの。親や大人は愛情をもって育つのを待ち、一歩引いて手助けする。「たくさん育てよう」とか「大きくしてやろう」とむやみな施肥が作物の生育を乱します。栄養（窒素）過多になると、茎も葉も実も軟らかく軟弱となり、気候変動（寒暖）にも耐えられなくなり、病気になり易く虫も付きます。となると、どうしても薬（農薬という毒）が必要になります。

また、「微生物を入れると有効」と聞くと土着菌ではない「よその微生物」を大量に入れ、酸性土には石灰を撒くといいと聞くと毎年大量に消石灰を入れたりします。微生物の死骸や石灰などの影響で土壌は冷えて固くなり、段々作りづらくなり病気が蔓延り、虫も多くなります。すると、ここでも薬（農薬という毒）の出番です。このようにして、ますます土は冷たく固くなっていきます。

自然の循環から益々遠のいて、年々不味くて体（人や動物）に良くないものを作り続けることになります。作物も人も連作障害の輪の中に組み込まれてしまいます。

他にも、“隣が農薬散布したから”とか、“虫（害虫？）が出るかも知れない、出たら大変だから”という心理的なプレッシャーや種々のトラウマに負けて、効き目のない卵の状態や蛹の状態（孵化や羽化の時期を考えず）で強い農薬を大量に散布する。そんなことも重なり、土は益々やせ細って（地力低下）しまいます。

人間も動物も植物も同じ生き物です。食べ過ぎ（栄養過多）、薬の多用（薬も多いと毒）は、生命体が本来持っている生命力（免疫力、自然治癒能力、自己調整・活性能力、忌避能力）を低下させ、ウイルスや病原菌などに対する防御力が弱まり病気に罹患<sup>りかん</sup>し易くなります。

解り易い例として、人の場合、食べる物や食べる量によって起こる糖尿病や心臓病、痛風などがあります。植物の場合ですと、水や窒素を与え過ぎると、徒長という枝や茎が間延びして伸びる現象（結果）になります。徒長すると病気に罹りやすくなり、暑さ寒さにも弱くなります。稲は茎が弱くなり倒れやすくなります。

徒長の原因には、肥料（窒素）のやり過ぎの他に、日照不足や根や株間、芽の混み過ぎとそれによる風通しの悪さもありますが、とにかく、窒素過多は作物を不味くします。

#### 自然に学ぶ会

人間社会にも田んぼや畑にもたくさんの病気がありますが、その殆どが食べ過ぎ（栄養過多）飲み過ぎ（水分過剰）が原因です。人間も動物も作物も与えればいくらでも食べ、いくらでも太り、軟弱となり病気を引き寄せ発症しています（遺伝子の問題）。病気になってから、いくらいい薬（農薬）を使っても健康にはなりません。まして、殆どの場合、問題を解決するために薬を使うほどのことはありません。収量減（5%程度と謂われています）と農薬や化成肥料のコスト比較をして判断してみてください。これからは私たち自身も、農という営みも、シックケアーからヘルスケアーへシフトする時です。

### 何を見て、何を考え、どのように生かすか

私たちは目先のこと、利益のこと、都合の良し悪しのことによく考えますが、自分たちにとって真の財産、例えば、土のこと、作物のこと、消費者のこと、子孫のこと、さらにこの「かけがえのないふるさとの環境」（社会的共通資本）のことを考えているのでしょうか。

自然のままの山（原生林）には病気も虫による被害も見受けられません。なぜでしょうか？多様な木々や草、そしてその落ち葉や小枝、倒木、それらを分解するミミズや微生物たち、これらを捕食する小動物や小鳥たち、・・・そこに降り注ぐ光や雨、吹き抜ける風、自然は見事なバランスを保ちつつ、そこに棲むすべてのものにとって最適な環境を作りあげています。木と木の距離（隙間）大木と低木、そして草花たちの草丈の違い、みんなが一緒に生きられる多様性のバランスを絶妙にとりつつ、お互いを生かし合い共存共栄しています。そこには病気や虫による害もありません。勿論、農薬も肥料も使っていません。

戦後、松枯れなど山の様子が異変が起きていますが、これも真の原因は環境汚染（酸性雨）や植林など人間の営みに因るものです。余談ですが、松枯れ対策と称して日本全国で長年ず〜っと大金（税金）を投じて防除して来ましたが、松が元気になったとか、山が蘇ったという事例はこれまで1件も聞いたことがありません。

エゴの連鎖と循環 ドイツ？フランス？アメリカ？→製薬会社→国→地方自治体→空中散布企業→保育園や幼稚園、小学校、中学校の子供たちの病気→病院→製薬会社→国・・・わけのわからない（何が原因か解かっていない）連鎖が営々と続く。

環境を良くすることで、土壌が健全性を保ち、微生物はバランスよく生息し働いてくれて、滋味で美味しい作物が採れ、それを食べる動物（家畜やペット）も人も健康となります。人は病気や不安から解放され、経済を含め豊かな人生を全うできると考えています。

自然に学ぶ会

## ～今まで当然と思っていたことを一度疑ってみることからはじめる～

### ☆既成概念という囚われからの解放

- ・・・例えば、多くの病気の真の原因をつくっているのは自分たち人間の仕業（エゴ）であるということや、害虫という虫はいない、悪玉菌（病原菌？）という菌はいない、という事実。

### ☆思い込みを一度捨てる

- ・・・例えば、化成肥料がないと作物は育たない、農薬は必要というのは本当か？誰か（科学者、製薬会社、国、自治体、販売者）に刷り込まれた常識かも！？そんな視点で今まで疑ってみたことありますか？

### ☆平和利用＝人の幸福、というパラドックス

- ・・・原子力発電、農薬、化学肥料は戦争に備えた殺人兵器の副産物。先に動き出したのは、弾薬や毒ガスなど化学兵器であり、原子爆弾です。人を一瞬で殺す目的で作られたのですから、虫は勿論、人間にも良く効く！？

### ☆健康＝病院や医者、薬品、医療技術・・・健康のためなら死んでもいい！？

健康とはいったいどういうことなのか？

まず、なぜ人びとが病気になるのかということを考えてみては。

### ☆教育＝カリキュラムをどのように教えるか？に終始

カリキュラムそのものはいいいのか？学ぶとはいったいどうゆうことなのか？

自然の理にかなっているのか？そして、人間的なのか？

すべての問題、課題に対して私たち一人ひとりに責任があります。他人事ではありません。何が真実で何が大事なのか、先ず自分自身で考え、確認、判断しながら行動していきましょう。3～4世代かけて環境破壊してきましたので、これを改善・回復するにはこれから3～4世代かかることを覚悟して、“隗より始めよ”ですね。今始めればまだ間に合います！

一生の間に、ある連続した5年、本当に脇目もふらずに、さながら憑かれた人のごとく、一つの研究課題に自分のすべてを集中し、全精力を一点に極める人があったら、その人は何者かになるだろう。（小卒で給仕から大学教授になった田中菊雄氏の言葉）

以上